

令和 7(2025)年度
事業計画書

令和 7(2025)年 3 月



1. はじめに

地政学的リスク、気候変動問題が世界経済に大きな影響を与えている。そのような中、日本経済は内需主導の成長が期待される一方で、物価高もあり実質的な賃金の増加を実感できる状況には至っていない。また少子高齢化や財政再建などは依然として大きな課題であり、私学経営にも大きな影響を与えている。

厚生労働省による 2024 年人口動態統計速報において、令和 6(2024)年の出生数は 72 万 988 人となって 9 年連続過去最少を更新し、少子化に歯止めがかからない現状が浮き彫りになっている。また、令和 6(2024)年 4 月入学者において定員割れした 4 年制私立大学は 59.2%(前年度 53.3%)にあたる 354 校で、日本私立学校振興・共済事業団による平成 11(1999)年度の調査開始以降、初めて 5 割を超えた昨年度よりもさらに上昇し、過去最多を更新している。

令和 7(2025)年 2 月に開催された文科省中央教育審議会は、「我が国の「知の総和」向上の未来像 ～高等教育システムの再構築～」(答申)の中で、今後の高等教育政策の方向性として(1)教育研究の「質」の更なる高度化、(2)高等教育全体の「規模」の適正化、(3)高等教育への「アクセス」確保を示し、大学再編・縮小支援の必要性を指摘している。また、文部科学省は私学助成金について、各校への配分方法を見直し、研究力や地域貢献度、教育力の高い私大に重点配分することを検討している。

本学としては、ミディウムサイズの学生数を維持しつつ、文理揃った総合大学として存在感を発揮し、社会に必要な大学として評価され、揺るがず持続的に発展していくための施策を確実に実行していく必要がある。さらに、「進化型理系構想」、「甲南新世紀戦略研究プロジェクト」、「甲南デジタルツイン研究所」などを推進し、さらなる研究力の向上を目指しながら、研究成果の社会還元・社会実装も重視し、大学院の充実を含めた甲南新世紀の人材育成強化を図る。

引き続き、政府の教育未来創造会議による日本人学生の派遣、外国人学生の受け入れ・定着の増加方針を念頭におきながら、グローバル教養学環「STAGE」の完成年度に向けた 2 年目の取り組みを確実に進め、さらなる国際化を推進していく。加えて、リカレント教育の充実も含め、地域とつながる「マルチステージ大学」としての発展を目指す。

これらは、最終年度となる「甲南学園中期計画(2020～2025)」(以下、「学園中期計画」という)のもと、大学では「KONAN U.VISION 2025」を目指す活動、高等学校・中学校では「中期行動計画」のアクションとして取り組み、令和 8(2026)年度より始動する次期中期計画につながるよう健全な学園財政を堅持し、学生生徒から預かる貴重な学費の有効活用を意識し、各事業を進めていく。

学園中期計画における学園スローガン、大学および高校のビジョン

学園スローガン	
(1) 「人物教育率先」の革新的進化を実現する (2) 世界に通じる「KONAN クオリティ」をつくる (3) 地域社会と朗らかに「つながる学園」となる	
大学ビジョン	高校ビジョン
(1) ミディウムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進め、予測不可能な時代を「正志く、強く、朗らかに」生き抜く人物を育むことにより確固たる信頼を得る大学になる。	(1) 心身共に健康で豊かな人間性を育む
(2) 世界に通用する研究力と地域社会の発展に資する共働互助の力を教育に生かし、人物の育成と社会貢献を通じてより良い社会の実現に持続的に貢献する大学になる。	(2) 個々の秘めたる才能を引き出す
(3) つなげる力・つながる力を生かして絶えず革新を重ね、時代の変化のなかでも強靱かつしなやかに進化し続ける質の高い大学になる。	(3) 教養豊かな人材を育成
	(4) 主体的に行動する人材を育てる
	(5) チームワークを育む
	(6) チャレンジ精神を身につけ、グローバル社会に貢献する人物を育成する

2. 予算編成にあたってのガイドライン

- (1) 学園中期計画の中での位置付け、スクラップ＆ビルドを意識して事業計画を策定し、PDCA サイクルを念頭に計画に相応しく最大限効果を発揮しうるよう検討した内容で予算申請されたものを予算措置する。申請に際しては必要性や有用性の観点をもち、過年度の予算額と執行額との差額を点検したうえで、関連部課室と連携・調整することを求める。なお事業計画は半期毎に進捗状況を確認したうえで予算を補正し、進捗を後押しする。
- (2) 既存の事業については過年度の目標達成度に加え、初期目的が達成できる方向に動いているか、コストバランスの視点でも検証し、新規事業は実施可能かつ費用対効果を最大限発揮しうる積極的な予算となるよう、メリハリをつけて予算編成を行う。
- (3) ST 比の改善を視野に入れ令和 5 (2023)年度に実施した学費改定の趣旨を踏まえ、人物教育率先・教育力の甲南づくりを推進する。十分に練られた事業計画を実現するための教育プログラムに対しては積極的に予算措置するが、コスト意識も持ち、様々な方策を検討した上で予算編成する。
- (4) 事業活動収支予算は、教育の質向上などの将来投資につなげるために経常収支差額の均衡を目指し、事業活動支出の割合は同収入の 99.0%を堅守する。
- (5) 収入の中で大きな比率を占める学生生徒など納付金確保の為、在籍目標者数を堅持する。また事業計画を実施する中で獲得しうる補助金は可能な限り申請し、予算編成する。
- (6) 一人あたりの単価が設定されている費目は、教員や学生の人数変動を考慮して予算措置する。他方、それら以外の経常的な経費は令和 6 (2024)年度予算額を上回らない金額で編成、新規プロジェクトは支出見直しにより捻出した財源を充当する。
- (7) 学園中期計画を推進する上で必要な機能別横串戦略(広報戦略、グローバル戦略など)に必要な予算を措置する。情報システム基盤グランドデザインに基づく計画は、情報化戦略会議での議論を踏まえて推進する。キャンパス・グランドデザインについては、「大学・高専機能強化支援事業」の補助金収入を活用した 15 号館新築、理工学部「環境・エネルギー工学科」開設に向けた 7 号館改修や、特高キュービクルの更改を進める。
- (8) 「大学都市神戸産官学プラットフォーム」活動などを含む社会連携推進施策に向けた動きや、研究力向上タスクフォースの活動について必要な予算を措置する。なお社会連携事業による一般向け講座やイベントについては、収支均衡を原則として申請、措置する。
- (9) 入学者選抜実施に必要な経費は、投資効果を十分に事前協議した上で予算申請する。また学生募集広報は学生生徒確保やレピュテーション向上を意識するが、教育研究の質向上の為の投資への影響も考慮して予算措置する。
- (10) 第 2 次 KONAN プレミア・プロジェクトは、「KONAN U. VISION 2025」達成の取り組みとして実行されることに留意し、継続案件は事業内容・実施状況と教育効果を十分に検証した上で経常経費化・廃止・継続の判断を行い、これに新規案件を加えて予算化する。事業経費・基盤整備にかかる支出を含めて 1.7 億円程度とし、引当特定資産を活用する。
- (11) 令和 6 (2024)年度から新たに開始された 3 つの甲南新世紀戦略研究プロジェクトについては、計画に基づき、計 1.5 億円を上限として措置し、引当特定資産を活用する。また可能な限り経常費補助金(特別補助)にかかる研究施設運営支援などの獲得を目指す。
- (12) 資産運用収入(受取利息・配当金収入)は、安全性やリスクを踏まえた資産運用方針に従った運用を継続し、理事長、学長および校長より提案を受けた「21 世紀に輝く学園」、すなわち、「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」、「大学院生への支援」および「国際的に卓越した研究推進」に重点配分する。
- (13) KONAN-DX サブプロジェクト、KONAN クオリティ・プラスプロジェクトなどは学内会議で審議されたことを前提として予算措置する。実施に際しては引当特定資産を活用する。
- (14) 人件費および委託業務費は、最低賃金の上昇、人手不足の深刻化などの社会情勢に適応し、有為な人材を獲得できるよう、引き続きカリキュラムの見直し・生産性向上に努める業務改善などを反映、また金額および必要性・実効性を精査・査定し、その効力を高めることに努めた上で総額を管理する。

3. 施設・設備への資金配分

人物教育を推進する場としてのキャンパスは本学に欠かせない重要資産であり、施設・設備への資金配分は少人数教育の推進・学生相互の人間形成のうえで重要な役割を果たすとの観点から、快適に教育活動・キャンパスライフが送れるように配慮する。また専門的な見地も活用し、全学的な視座による施設・情報化のグランドデザインを描き、既存施設・構築物の安全性を点検のうえ、適切な範囲での対応を継続し、遵法の観点および精神をもって予算編成する。

- (1) キャンパス・グランドデザインに基づく計画が実施可能となるよう、減価償却累計額に注視しながら、可能な限り再投資資金の積立を行う。
- (2) 学生・教職員の安心・安全を優先した施設改修、カーボンニュートラルに向けた省エネルギー化などの工事は、コストに留意しつつ、緊急度・優先度・耐用年数も考慮して平準化を図り、予算化する。また気候変動や大規模災害への対策などについてもその必要性を計り、教育研究活動に支障をきたさないよう予算編成する。
- (3) 教育・研究充実のための施設・機器の購入は、耐用年数も踏まえた計画的な更新・購入を行う。また図書資料については、DX化の推進を意識して予算編成を行う。

4. 事業計画および予算編成にあたっての基本認識

(1) 経営環境の認識

① 私立学校を取り巻く経営環境

日本私立学校振興・共済事業団の「入学志願動向調査」および「今日の私学財政」によると、令和6(2024)年度に「入学定員未充足」となった私立学校は、大学が59.2%(598校中354校)であり昨年度より5.9ポイント上昇し、引き続き定員割れの大学が増加傾向にある。高等学校の「入学定員未充足」について、15歳人口は前年度より0.7%減少し、志願者数は2.3%、受験者数は2.5%、合格者数は2.5%、入学者数は2.5%それぞれ減少し、定員割れの高校が71.5%(1,293校中925校)となり、前年度より2.3ポイント上昇した。

② 私学助成の動向

18歳人口は令和6(2024)年106.3万人であるが、出生者数の状況を踏まえると令和17(2035)年には、100万人をわり、そこから5年間で急減、更に少子化が加速する。このことにより、令和22(2040)年の大学進学者数は、現在の大学入学定員総数より約17万人少ない約46万人になる可能性があるとの推計が文部科学省より示されている。急速な少子化の進行は、私立大学における教育研究上あるいは経営上の努力・工夫によって乗り越えることが困難なほどの経営環境の悪化をもたらしかねない深刻な状況である。このような状況下において、文部科学省は、現在約73.8%の学生が在学する私立大学の再構築が必要であるという認識のもと、令和6(2024)年度～令和10(2028)年度の5年間で「集中改革期間」と位置づけて、私立大学の将来を見据えた「チャレンジ」、「連携・統合」、「縮小・撤退」の3つの方向性に向けた経営判断をはじめとした意欲的な経営改革を支援する助成事業を継続的に実施している。

また、文部科学省としては、教育の質に係る客観的指標を通じたメリハリある資金配分による教育の質向上を促進する政策を継続するとともに、引き続き「私立大学等改革総合支援事業」として、「未来を支える人材を育む特色ある教育研究の推進」や「高度研究を実現する体制・環境の構築」、「地域社会への貢献」、「社会課題を解決する研究開発・社会実装の推進」など、自らの特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学などを重点的に支援するとしている。

教育条件の維持向上などを図るとともに、改革に取り組む私立大学などを重点的に支援するメリハリある配分が実行されることにより、今後も私学助成獲得に関する競争要因が高まっていくことが留意される。

(2) 本学園の経営状況

① 大学および高等学校・中学校の入試志願者数

大学において、競合する他大学との重複が少ない日程変更などの入試制度改革を行い、令和 7(2025)年度の一般選抜入学試験(共通テスト利用型含む)志願者数は延べ 25,381 名と、令和 6(2024)年度から 37.0%増となった。また、公募制推薦入学試験(教科科目型)においても、志願者数が 5,227 名(前年度比 126.6%)となった。

高等学校・中学校において、中学校入試の延べ志願者数は、前年度 884 名から 834 名(甲南小学校からの志願者 27 名除く)となり、前年度比 94.3%ながら、男子校として非常に健闘している結果となった。また高校入試は、専願制として約 25 名を募集、22 名の志願があった。

② 私学助成の取得状況

文部科学省令和 6(2024)年度私立大学等改革総合支援事業において、本学は 4 項目中 2 項目(タイプ 2 および 3)が選定され、前年度 1 項目の選定状況から改善した。同事業タイプ 2「特色ある高度な研究の展開」は、初めての採択となった。また、令和 5(2023)年度の私立大学等経常費補助金額は、約 9.2 億円(585 校中 70 位)であり、うち教育改革や研究高度化に資する取組みに対して上乘せされる特別補助金額は、約 1.2 億円(585 校中 39 位)となっており、相対的に高い水準を維持している。

③ 科学研究費の採択状況および外部資金の取得状況

日本学術振興会より有望な研究計画に付与される令和 6(2024)年度科学研究費の採択状況は、81 件・約 1.9 億円(継続を含む研究代表者分のみ)であり、継続して高い水準を維持している。

また、研究活動の実用化指標となる産業界などからの受託研究、共同研究、奨学寄附金などの外部資金による研究助成額も過年度と比較して増加傾向となっている。

④ 大学卒業生の就職状況、高校卒業生の大学進学実績

令和 5(2023)年度の大学卒業生の就職率(内定者/就職希望者)は、全国平均 98.1%を上回る 98.5%(前年度比 0.2%減)であり、過年度から継続して高い水準を維持している。実就職率(就職者数/(卒業生数－大学院進学者数))は、90.8%(前年度比 0.7%増)となった。

高等学校の大学進学実績は、令和 5(2023)年度卒業生において、甲南大学の進学者数は、88 名であった。その他、国公立大学に 20 名(うち医歯薬獣医系学科に 2 名進学)、本学以外の私立大学に 55 名(うち早稲田・慶應義塾・上智 5 名、医歯薬獣医系学科に 3 名進学)、海外の大学に 3 名が進学している。

5. 令和 7(2025)年度当初予算の要点

(1) 事業活動収支の概要について

① 基本金組入前収支差額

予算編成方針において経常収支差額の均衡を目指しており、約 1%の基本金組入前収支差額(約 1.5 億円)を目指しているが、収入合計約 153.5 億円に対して支出合計約 151.9 億円(基本金組入前収支差額約 1.6 億円)となり、目標としている支出額以内で予算編成する。進化型理系構想、新世紀戦略研究プロジェクト、グローバル教養学環の活動やリカレント教育の充実などに取り組むが、収支差額約 1%の実現を目指し、期中での支出節減に努める。

② 各設置校の財政的自立

大学および本部約 1.5 億円、高等学校・中学校約 0.1 億円の収支差額を見込む。

(2) 資金収支の概要について

預り金などの調整勘定を除いた経常資金の動きを次表の資金収支計算書に掲げている。また特定資産への繰入れ・取崩しを表す資産運用支出・その他の収入において、新 15 号館新築にかかる設計費用として約 16.7 億円を含めた 31.8 億円の取崩しを実施するため、特定資産は減少の見通しである。

(3) 資金収入の概要について

① 学生・生徒など納付金収入

前年度補正予算額約 115.8 億円に対して約 2.0 億円程度の増額を見込んでいる。部門別の内訳では、大学においては学費改定による増額を、高等学校・中学校でも同様の理由から増額を見込んでいる。

なお大学入学者数の予測は年々難しくなっており、前年度も前々年度に引き続き在籍目標者数を上回る学部が発生した。入学者の精緻な確保施策と退学者抑制諸施策を継続し、最適規模での教育を実施するとともに、引き続き確実な収入確保を目指さなければならない。

② 補助金収入

前年度補正予算額に対して約 0.5 億円減少し、約 18.6 億円の見込みである。教育改善や研究高度化などの取組みが評価される私立大学改革総合支援事業や特別補助関係事業、更には施設設備補助金などへの積極的な申請を継続する。

(4) 資金支出の概要について

① 人件費支出

前年度補正予算額 77.5 億円に対して約 1.1 億円減少し、約 76.4 億円の見込みである。大学本務教員は先送りとなっていた後任人事が進んだことや定期昇給により俸給は増額となっているが前年度とほぼ同額を見込んでいる。本務職員は人数増や定期昇給、各種社会保険料法人負担などの所定福利費が増加したことにより約 0.9 億円の増額を見込み、兼務職員は外部資金など研究員の採用などで約 0.2 億円を増額計上する。高等学校・中学校本務教員は先送りとなっていた後任人事が進んだことにより約 0.1 億円の増額を見込んでいる。

② 教育研究・管理経費支出、施設・設備関係支出

全体としては、前年度補正予算額約 72.7 億円から約 22.1 億円増加し、約 94.8 億円を見込んでいる。特に、大学の施設関係支出は新 15 号館新築関係費用のほか、13 号館、ポートアイランドキャンパスおよび高等学校・中学校「徳体知アリーナ」の空調工事などで約 20.4 億円の増、設備関係支出は情報システム・ランドデザインに基づく情報基盤環境整備として共通仮想化基盤の更改やバックアップ基盤の集約と統合などにより約 1.3 億円の増加を見込んでいる。

なお、教育研究・管理経費支出は、進化型理系推進経費として 15・16 号館解体費や広告費などの計上により約 0.4 億円の増加となっている。

6. 令和 7(2025)年度予算概要

(1) 資金収支計算(経常的資金の動き)

(百万円)

科目	R7 当初予算	R6 補正予算	差額	備考	
収入の部	学納金収入	11,782	11,579	203	・学費改定、学生数増加
	手数料収入	695	604	91	・受験者増を見込む
	補助金収入	1,865	1,917	▲52	・一般補助は圧縮率低下による減 ・修学支援制度 559 百万円を含む(同額を奨学費で支出)
	その他	6,728	4,045	2,683	・付随事業収入、雑収入および特定資産からの繰入収入を含む ・受取利息配当金収入は安全確実な運用を行う
資金収入の部合計		21,070	18,145	2,925	

(百万円)

科目		R7 当初予算	R6 補正予算	差額	備考
支出の部	人件費支出	7,642	7,751	▲109	・専任教員後任採用延期 ・本務職員人数増加 ・所定福利費増
	教育研究、管理、施設・設備関係支出	9,481	7,268	2,213	・主に新 15 号館建設にかかる施設関係支出の増加
	その他	3,478	2,898	580	・特定資産からの繰入支出を含み、預り金を含まず、経過項目を除く
	資金支出の部合計	20,601	17,916	2,685	
資金収入超過額		457	217	240	

(2) 事業活動収支計算(経常収支および特別収支)

(百万円)

科目	R7 当初予算	R6 補正予算	差額	備考
事業活動収入計	15,355	15,301	54	・約 1.6 億円収支差額プラスを計上
事業活動支出計	15,191	15,281	▲90	
基本金組入前収支差額	164	20	144	

7. 甲南学園中期計画(2020～2025)の推進

学校法人甲南学園は、3つの学園スローガン(「人物教育率先」の進化/世界に通じる「KONANクオリティ」/地域社会と朗らかに「つながる学園」)を掲げ、令和2(2020)年度を開始年度とする6ヶ年の学園中期計画の推進に取り組んでいる。最終年度になる令和7(2025)年度においては、引き続き以下(1)～(3)の取組みを継続しつつ、集大成に向かう。

(1)「機能別横串戦略」による全体最適化の推進

複数の組織に関係する重要な機能に対して改善すべき課題を洗い出し、全体最適化を図りつつ中期計画を推進するため「情報化戦略」、「広報戦略」、「キャンパス・グランドデザイン」、「人事戦略」、「財政戦略」、「グローバル戦略」、「社会連携推進施策」に関する諸施策の検討・実施を行う。

(2)「KONAN-CFT(クロスファンクショナルチーム)」による組織横断活動の推進

学園中期計画に関する全学的テーマや課題に対して、組織横断的にメンバーを選出してチームを編成するクロスファンクショナルチーム(以下、「CFT」という)を立ち上げ、プロジェクトやタスクフォース、委員会などの組織横断活動を推進する。

(3)「学園中期計画ダッシュボード」での点検・評価

令和5(2023)年10月からは、学内の各種データの収集・集計を行いグラフとして可視化する「KONAN IR Tool」において「学園中期計画ダッシュボード」が自動生成、閲覧可能となった。引き続き、学園中期計画に関する重要な指標をまとめたダッシュボードで学園中期計画の進捗・成果を継続的に確認し、点検・評価を行う。

8. 大学の主な取組み

学園中期計画のもとで令和3(2021)年度に策定した「KONAN U.VISION2025」達成のための6つの教学新機軸に沿った具体的な取組みを実施する。また、大学全体および各学部などのアクションプラン推進にあたって、令和3(2021)年度から展開する「第2次 KONAN プレミア・プロジェクト」を令和7(2025)年度も継続し、引当特定資産を活用した約1.4億円の予算規模で、63のプロジェクトを実施する。

1. ミディアムサイズ総合大学の特色を生かした質の高い教育基盤の確立

(1)「KONAN ディプロマ・サプリメント」の導入

ディプロマ・サプリメントの開発・導入を通じて、学生の成長を可視化する取組成果を集約し、正課外教育を人物教育の実質的な構成要素の一つとして確立することを目指す。

(2) 第4期認証評価に向けた内部質保証システムの機能強化

第4期認証評価で求められる「学習成果を機軸に据えた内部質保証の重視とその実質性」を踏まえ、アセスメントプランの整備をはじめ、学修ポートフォリオやIRレポートシステム、ジェネリックスキル測定などの取組みとも連携した、学習成果の可視化や教学マネジメントの確立に向けた取組みを推進する。

(3) 卒業生の声を教育に生かす「甲南大学教学アドバイザリー・ボード」会合の開催

大学の主要な取組みについて社会で活躍する卒業生の視点から助言をいただき、計画のブラッシュアップや新たな取組みの検討に反映することを目的に、年2回の会合を実施する。

(4) 障がいをもつ学生や留学生などサポートを必要とする学生への支援体制の強化

サポートを必要とする学生が安心して充実した学生生活が送れる環境整備の一環として、学生ボランティアの支援体制を構築する。

II.新たな時代に向けた甲南教育プログラムのさらなる発展

(1)「KONAN 進化型理系構想」の推進

① 理工学部 of 再編

令和 5(2023)年度「大学・高専機能強化支援事業」に採択され、新設する「環境・エネルギー工学科」および物理学科を改組して誕生する「宇宙理学・量子物理工学科」、機能分子化学科を改組して誕生する「物質化学科」の理工学部 3 学科に関して、文部科学省への令和 8(2026)年度設置届出を含む各種準備を実施する。

② 自然科学研究科「環境・エネルギー工学専攻」の開設準備

自然科学研究科における新たな専攻として開設する「環境・エネルギー工学専攻」に関し、文部科学省への令和 8(2026)年度設置届出を含む開設に向けた各種準備を実施する。

(2)「KONAN 彩り教育」特色ある学部・学環教育の推進

第 2 次 KONAN プレミア・プロジェクトなどの枠組みを活用し、各学部における特色あるエッジの効いた教育プログラムを展開する。

[文学部]

学科横断型教育の拡充を目指す「リンク・プログラム」、「横断演習」の実施。地域活動としても展開する「甲南映画祭」、地域在住外国人の日本語学習支援を実施する「あおぞら(日本語ボランティア教室)」の開催。人間科学科・歴史文化学科における「博物館学芸員課程」の実施。

[経済学部]

社会の第一線で活躍する卒業生や行政・企業などとの連携・協力によるプロジェクト型授業「プロジェクトゼミ」、「地域政策ワークショップ」の実施。経営者として活躍する卒業生の協力を得て、学生にインタラクティブに学ぶ機会を提供する「経営者サロン」の開催。

[法学部]

公務員や資格(司法書士・行政書士・社会保険労務士・法学検定試験)の取得に意欲のある学生を支援する「公共人材養成プロジェクト」の実施。

[経営学部]

企業経営全般の基礎的な専門知識をマスターし、3 か月間の長期インターンシップを経験するビジネス・プロフェッションコース、留学を目指して語学力を高めるグローバル・ビジネスコース、会計関係の資格取得を目指すアカウンティング・プラクティスコース、の 3 つのコースのもとで、社会で活躍するリーダーを育成する「ビジネス・リーダー養成プログラム」の実施。

[マネジメント創造学部]

西宮北口駅前の恵まれた立地を活かし、阪急西宮ガーデンズ、西宮市役所、兵庫県立芸術文化センターなどの産官学連携による実践型プロジェクト学習を実施。海外フィールドワーク(フィリピン、インドネシア、インド)に加え、海外大学から短期プログラムで留学生を受け入れる。

[グローバル教養学環]

言語運用能力と異文化間調整能力の向上を目指し、海外の学生と交流・共同研究を行う「COIL 型授業(国際オンライン協働学習)」の実施。グローバルにもローカルにも活躍する卒業生やゲストなどを招いた講演会・セミナーの開催。

[理工学部]

多くの教職員、大学院生、学部生が集う場「サイエンス・ラーニングコモンズ」を活かした能動的学修の実施と 3 学科での融合イベントの開催。物理学科における、理系の素養をもって文系の分野でも活躍できる人材を育成する「文理融合コース」、物理学科・生物学科における「博物館学芸員課程」の実施。

[知能情報学部]

社会で求められる優れた IT 人材の育成に寄与することを目標として、正課カリキュラムに加え、AI やプログラミングなどの知識を習得・実践することに意欲のある学生を対象にした「スーパーIT 人材育成プロジェクト」の実施。

[フロンティアサイエンス学部]

神戸医療産業都市の中心地である神戸ポートアイランドの地の利を活かした「アイランドシップ連携」、研究者・技術者として理系の専門知識を究める「先進科学コース」、文理を融合した「学際科学コース」の実施。

(3) 「KONAN 彩り教育」特色ある全学共通教育の推進

① 「KONAN 数理・データサイエンス・AI 教育アドバンスプログラム」の設置

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」における応用基礎レベル(リテラシーレベルの教育を補完的・発展的に学び、AI を活用し課題解決につなげる基礎能力を修得)に対応した全学共通教育プログラムを設置し、令和 8(2026)年度における同制度での認定を目指す。

② 「DE&I 入門」の設置

ダイバーシティ(多様性)、エクイティ(公正)&インクルージョン(包摂)について、多様な観点から学ぶことによって、他者と共生する社会の構築や「共働互助」について深く理解することを目的とする全学共通教育科目を開講する。

III. 融合型グローバル教育の浸透と発展

(1) 学生一人ひとりのニーズにあった留学の実現に向けた多様な留学制度の整備・充実

短期留学プログラムでは、「エリアスタディーズ」を年間 8 コース開講。中長期留学プログラムでは、新たな海外留学先の拡充に向けて、アジア圏を中心に協定校候補大学を検討する。さらに、専門スキルアップ留学プログラムの提供を開始する。

(2) キャンパスのグローバル化

キャンパスグローバルゾーン「Porte」におけるグローバル教育の一層の充実、海外協定校からの Short-term Programs の受け入れによる国際交流の活性化に取り組む。

また、外国人留学生(正規留学生)の受け入れ強化に向けて、ホームページの充実、日本語学校などへの情報提供や進学説明会への参加などを継続し、正規留学生募集活動の強化に取り組む。また、「大学都市神戸産官学プラットフォーム」の枠組みを活用して、正規留学生が卒業後に兵庫・神戸地域に定着することを目指した中長期インターンシッププログラムの開発を行う。

IV. 地域連携の深化と教育への展開

(1) 大阪・関西万博における地域社会と連携した活動の発信

令和 7(2025)年に開催される大阪・関西万博に協賛し、①、②の取組みを万博会場で展開する。

① 神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市の自治体と朝日新聞社と連携により実施する「関西湾岸 SDGs チャレンジプロジェクト」の活動・成果報告

② 本学教員・学生と映像作家が連携して実施する「EXPO'70 アート・ドキュメンタリー映画製作プロジェクト」の作品映画の上映

(2) 多彩な地域連携プロジェクト、地域貢献事業の展開

本学が連携協定を締結する地域の産官学を中心に、学生がキャンパスを出て、地域社会で学ぶ地域連携プロジェクトを実施する。また、本学が保有する知的資源、人的資源、物的資源を生かした「公開講座」、「言語講座」、「KONAN スポーツクラブ」などを実施するとともに、「キッズフェスティバル」、「スポーツフェスティバル」、国内外で活躍する様々な作家を招聘し、地域に開かれた講演会として実施する「文学、あります」など多彩な地域貢献事業を展開する。

(3) 甲南リカレント教育プログラムの展開

卒業生や地域の社会人など多世代が学ぶマルチステージ型キャンパスを目指して、履修証明プログラムを展開する。「人生 100 年時代の学びプログラム」、「グローバルリテラシー教育プログラム」、「ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム」に加えて、2024 年度後期から完全オンラインでプレ開講した「金融リテラシー教育プログラム」を本格開講する。

(4) 大学都市神戸産官学プラットフォームでの共創プロジェクト実施

本学が提案し、リーダーを務める共創プロジェクト「県内・市内就職・定着を目指した留学生向け中長期就業体験プロジェクト」、「大学都市 KOBE SDGs Challenge プロジェクト」を実施する。

V. 世界に通じる特色ある研究力の活用と展開

(1) 第 2 回「甲南大学先端研究社会実装シンポジウム」の開催

本学の特色ある研究力を発信し、研究力の向上・研究成果の社会実装につなげることを主たる目的として、第 2 回「甲南大学先端研究社会実装シンポジウム」を開催する。社会の第一線で活躍する卒業生による基調講演の他、本学の研究者と学外者とのコミュニケーションを活性化させること、研究成果をリアルに感じてもらうことに留意したプログラムを構成する。

(2) 「甲南新世紀戦略研究プロジェクト(第 I 期)」の展開

最先端で甲南らしい特色ある研究からイノベーション創出など社会の発展に大きく寄与する取組み、および地域に根差し、その課題解決をリードしていく甲南らしい特色ある研究から地域の経済・社会・雇用・文化などの発展・深化に大きく寄与する取組みに助成を行い、本学の研究力の向上および教育への浸み出しを目的とした「甲南新世紀戦略研究プロジェクト」を令和6(2024)年度から開始している。第 I 期(令和6(2024)年度～令和9(2027)年度)に採択された以下の研究プロジェクトを引き続き展開する。

[エネルギー変換材料研究所 / カーボンニュートラルに貢献するエネルギー変換材料の開発研究]

次世代太陽電池用材料、高効率な水素発生触媒材料、高い安全性と大きなエネルギー密度を実現する全固体電池用材料などをサブテーマに据えた効率的なエネルギー変換材料の開発

[ナノ材料工学研究所 / 未利用熱マネジメントに向けた革新的熱電変換ナノ材料の開発]

廃熱として環境中に放出されている未利用熱エネルギーを電気エネルギーに変換して回収・再利用することが可能な高性能熱電変換ナノ材料の開発

[先端生命工学研究所/非ワトソン-クリックワールドの核酸化学の確立と国際核酸化学研究拠点形成]

環境に応答する核酸の二重らせん、および非二重らせん構造を予測できるエネルギーデータベースを構築し、各国の研究グループを取りまとめ、核酸構造により制御される遺伝子の情報伝達機構の解明。生命の普遍的かつ基盤的現象を担う核酸構造から構成される新たな概念を提唱し、核酸化学の国際研究拠点の形成を目指す。

(3) 知財に通じた人材を社会に輩出する「知財ワン・ツー・スリー!プロジェクト」

知財に関する基礎知識をオンデマンドコンテンツで身に付ける(ステップ1)、知財関係開講科目を受講する(ステップ2)、自らのアイデア、研究成果について専門家のサポート、申請費用の支援を受けながら特許申請する(ステップ3)からなるプロジェクトを継続し、在学中に特許申請をした学生・大学院生を輩出できるようにする。「知財も学べる」大学として、彩り教育の特色の一つにするほか、KONAN サークティフィケートでの認定分野への追加も目指す。

VI. 「KONAN クオリティ」の追求と創造

(1) 「人物教育の甲南大学」としての共感醸成に向けた取組み

令和5(2023)年度に発行した本学教育の特長を示す簡潔なブランドブックを活かし、人物教育のブランドストーリーの学内外への展開・浸透を図る。また、この一環として、第2回教職員研修「『彩り教育』成果発表会」を開催する。

(2) 「進化型理系」、「彩り教育」などの教育改革や入試制度改革に関する情報発信の強化

本学に関心を持つ高校生やその保護者などへ直接情報を届けることができる広報手法を活用し、「進化型理系」、「彩り教育」などの教育改革や入試制度改革に関する情報発信の強化を図る。

(3) 高大接続の充実

高大の教育接続活動をより深化させ、本学の教育と高校教育との融合をさらに推進する目的として、本学独自の教育接続活動「リサーチフェスタ」を継続して開催する。また、「KONAN 進化型理系構想」推進策の一環として、甲南大学の理系3学部存在を強くアピールし、理系学部の魅力を知っていただくための中高大接続イベントを開催する。

9. 高等学校・中学校の主な取組み

学園中期計画のもとで令和 3(2021)年度に、「中期行動計画」を定め、4つの柱(「教育環境の整備」、「教育プログラムの開発・整備」、「高中運営の持続的発展」、「国際交流の推進」)に沿ったアクションプランを推進する。

教育環境の整備

(1) アクティブラーニングと AV・ICT 環境の整備

2024 年度に改修した視聴覚教室でアクティブラーニングを展開する。また、物理教室の AV 機器の更新、ならびに工芸室に AV 環境を新設する。

教科「情報」のプログラミングの授業展開に向けた PC 教室改修の再検討を行う。

(2) 多様な進路に対応する e ポートフォリオシステムの構築

PROG(PROGRESS REPORT ON GENERIC SKILLS)の中学生版、高校生版を実施する。測定結果を大学版 PROG(ジェネリックスキルテスト)と連携させることで、中高大一貫教育の可視化を図る。

教育プログラムの開発・整備

(1) カリキュラムの再構築

新学習指導要領に対応した新しいカリキュラムの移行を完了させるとともに同カリキュラムの点検作業を行う。

10 年一貫教育プログラムでは、ジェネリックスキルを活用した成長の確認、甲南大学にて開講している「甲南大学と平生釦三郎」のオンデマンド受講、長期休暇中の集中講座の受講を模索する。

甲南大学との連携強化では、大学での実験講義の受講や大学教員の出張講義、高大接続イベント等のプログラムを継続、部分修正を実施して定着を図るとともに、推薦制度の検証を行い、同制度の改定を検討する。

(2) 学習遅進者に対する学習支援プログラムの整備と学力の定着

放課後学習会を継続実施する。また、学習支援アプリ「モノグサ」「スタディアプリ」の効果検証を行い、活用を続ける。

フロンランナーコース向けの受験指導力向上を図る。同時に、受験先大学情報の収集能力を強化し、英語多読用図書の配架を継続して生徒に活用を促す。

高中運営の持続的発展

(1) コース制の発展・充実および生徒数確保のための入試改革の実施

メインストリームコースの完成に向け、新留保制度の検討・整備を行う。

中学入試制度の検証を行い、入試制度の改革に向けた検討を実施する。また、説明会をコース別で実施することで充実化を図る。

(2) 校務分掌の改編による教員組織の活性化

校務分掌の改編によって、生徒支援体制の強化を図る。また、危機管理マニュアルを改訂し、甲南スクールコンプライアンスを策定する。

教員の雇用形態の充実化により採用辞退で見送りとなった特任教諭の採用を目指す。変形労働制導入に伴う勤怠管理の徹底を図るとともに、教員の働き方改革の一環として、教員業務支援スタッフの配置と試行、部活動指導員導入に向けた情報収集を継続、OB 教員の活用を検討する。

国際交流の推進

(1) 海外の高校・中学校との姉妹校締結と海外交流プログラムの整備・拡充

オーストラリア、ニュージーランドの姉妹校からの留学生受け入れを機に、本校生徒の交換留学を再開させる。また、新たにイギリスの学校との協定を締結する。加えて、アメリカの学校と協定を結ぶべく、学校開拓を進める。

アドバンストコース対象のプログラムとして、アジア・スタディツアーを実施する。これにおいては、卒業生の協力のもと、マレーシアにてアジア経済を考えるプログラム内容とする。

(2) 海外大学との交流

国際教育部のもと、進学先となり得る海外大学の情報を収集する。収集にあたっては、スタディツアーや留学引率時の機会を活かし、現地の大学を訪問するなどを行い、情報収集とともに関係の強化を図る。

10. 法人の主な取組み

学園中期計画のもとで令和2(2020)年度に、「中期行動計画」を定めており、KONAN-CFT および各部課室の取組みとして、この計画に基づく取組みを推進する。

学園運営の一層の健全化

(1) 学園全体での中期計画推進と情報共有の強化

学園中期計画推進にあたり学園本部会議や理事会において、学部・センターなど各部局の現状と課題を共有し、今後の方向性を組織的に確認しながら PDCA サイクルを稼働させる。学園本部会議・理事会の資料および確認・決定事項については、グループウェアを活用し学内に共有することに加え、学園ニュースとして、毎月全ての専任教職員に対して、情報を共有する。

(2) 学園ガバナンス体制の強化

学校法人のガバナンスに対する社会的な期待や経営の透明性・健全性が求められる中、令和7(2025)年4月より施行される改正私立学校法に基づく、新たなガバナンス体制のもとで、学園運営の一層の健全化を図る。また、令和4(2022)年度に改正された「大学設置基準」に基づく基幹教員制度の導入など、順次、新基準適用に必要な取組みの推進を図る。

(3) KONAN-DX の推進

業務面の DX においては、決裁業務や人事関連手続き業務における電子化と安定的な運用を進めるとともに、業務効率化を念頭に置き、令和8(2026)年度に更改予定の新財務・会計システムにおける導入準備をすすめる。

教育面の DX においては、チャットボットの効率的な活用を全学で情報共有を図りながら進めるとともに、遠隔授業の実施に最適なオンラインコンテンツ配信プラットフォームの検証を行う。

(4) 情報セキュリティインシデント対策の強化

情報セキュリティインシデント対策の強化を継続するとともに、情報セキュリティインシデントや災害発生時に、学園業務を迅速に復旧できるよう「甲南学園ディザスタ・リカバリ計画」に沿って、主要なサーバがより円滑に復旧できるバックアップ基盤を構築する。

(5) 職員の完全週休2日制の導入

令和4(2022)年度に立ち上げた「働き方の制度関連サブタスクフォース」において、休暇取得日数の均衡化やワークライフバランスの充実を図ることを目的として、職員の完全週休2日制の導入に関する議論を行い、各種諸規程を整備したが、制度導入にあたって職員の勤務状況の変化や満足度について確認する。

財政基盤の強化

(1) 再投資資金の積立管理と中長期の資金シミュレーション

学生支援の基金充実やキャンパス魅力化につなげるため、減価償却累計額の30%以上の再投資資金の積立に向けた管理を行うとともに、次期学園中期計画の策定一環として、中長期の資金シミュレーションを行い、財政基盤の強化に向けた計画を策定する。

(2) 「KONAN 未来サポーターズ」および各種募金活動の活性化

卒業生および教職員をはじめ、地域住民など幅広いステークホルダーを対象に、継続的に学園を支援いただくことを目的として、令和4(2022)年度より開始した「KONAN 未来サポーターズ」制度について、サポーターへのサービスなどを充実させ、会員の増加を図り、各種募金活動、神戸市との連携による「ふるさと納税を活用した寄付」などとともに活性化を図る。また、学園創立110周年記念募金事業の具体化に取り組む。

社会との結節点としての広報機能の拡充

(1) 卒業生および地域社会との朗らかなつながりの推進

令和 5(2023)年度に設置した「つながる学園推進室」において、卒業生が活躍する地域との連携強化、開設 5 年目の「KONAN-PLANET」の充実、多彩な地域貢献事業の実施、大学都市神戸産官学プラットフォームなどの地域連携プラットフォームでの活動推進により、卒業生および地域社会との朗らかなつながりの推進を図る。

(2) わたせせいぞう氏による甲南学園イラストを活用した学園ブランディング

わたせせいぞう氏による本学園のイラストを活用した広報活動を展開し、地域社会と朗らかに「つながる学園」のイメージの醸成、浸透を図る。

(3) 活躍する卒業生パネル展示の実施

令和 5(2023)年度に大学および高等学校・中学校に設置された「活躍する卒業生のパネル展示」第 2 弾として、芸術文化やスポーツ分野などで活躍する卒業生を紹介するパネルを追加して展示する。

安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備

(1) 大規模災害発生時などの学生、教職員の安否確認体制の一層の強化

岡本キャンパス・西宮キャンパス・ポートアイランドキャンパスにおける全ての防災訓練等にて継続的に安否確認の訓練を行うなど、学生、教職員の安否確認体制の一層の強化を図る。

(2) インフラ整備計画の推進

岡本キャンパス 10 号館北側にある特別高圧受変電設備を移設する計画を進捗させ、詳細設計の策定後、外構工事および特高受変電設備建屋の新築工事を着工する。

(3) 15 号館新築計画の推進

進化型理系の新たな学びの拠点となる岡本キャンパス西校舎 新 15 号館の令和 8(2026)年度中の竣工を目指して、既存の 15・16 号館解体を完了させ、新 15 号館建築工事を着工する。

(4) 岡本キャンパストイレの改修(第 3 期)の実施

過年度から段階的に進めてきた岡本キャンパス内のトイレの洋式化の第 3 期目として、10 号館および 13 号館の改修を行い、トイレの洋式化 100%を実現する。

(5) 知のエントランス i Entrance(10 号館 1 階)の活用

令和 6(2024)年度に 10 号館の改修を完了し、1 階スペースに新たに誕生した知のエントランス(名称：i Entrance)において、動画・ポスター展示等を通じて、特色ある研究・教育の情報発信に取り組む。

以 上